

# 畑で感じたことは ずっと心に残るから



南ヶ丘幼稚園の「じゃが芋掘り」。子どもたちに掘り方を教える細野さん



「わー！あったー！」  
みんな夢中で土の中からじゃが芋を掘り出します



住宅街の中の細野さんの畑。キャベツやブロッコリーが整然と並びます



細野さんの食育活動は、乳しぼり体験の時代を含めると約20年続いています



町田市小川に点在する畑で野菜を栽培している細野修一さんは、近隣の幼稚園や保育園の子どもたちを招いたり、小学校の授業に参加するなど、食育活動に積極的に取り組んでいます。「今のような宅地が開発される前は、このあたり一帯に畑や田んぼが広がっていたんだよ」と話す細野さん。代々この地で農業を営み、10年前までは酪農にも取り組んでいました。毎年夏休みに小学校へ出向いて乳しぼり体験などを行い、地域の子どもたちと交流を深めてきました。

「食へるということは命をいただくということ。お米も本来は自分たちの子孫を残し命をつなぐための『種』で、そのおほれを人間がいたにいたに過ぎないんです。畑に來れば普段食べている野菜が命を育んでいる様子を体感することができます。自分の手で命の尊さを感じてほしいです」

収穫体験だけでなく、給食用に近隣の小学校へ野菜を届けている細野さん。野菜を通じて地域の子どもたちの成長を見守り続けています。